九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

国際結婚女性のメディア活用と生活の転換経験 : 中国出身女性を中心に

金, 姸姬
大邱大学校社会福祉学科 : 教授

https://doi.org/10.15017/2004829

出版情報：韓国研究センター年報. 18, pp.44-61, 2018-03-31. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

国際結婚女性のメディア活用と生活の転換経験
―― 中国出身女性を中心に

金妍姫[1]

本研究は、国際結婚女性が韓国に移住し定着する過程においてメディアテクノロジーがアクターとしてどのような役割をするのかといった質問に対する答えを求めた。アクターネットワーク理論を分析の概念的枠組みとして用い、中国出身の七名の国際結婚女性を対象として深層面接を行った。研究の結果、国際結婚女性が移住以前の時期に扱った主なメディアテクノロジーはテレビであり、韓国定着後に扱ったメディアテクノロジーアクターネットワークはパソコン、インターネット、スマートフォン、サイバーラーニングなどといったより多様なアクターであった。メディアアクターネットワークとの相互作用は女性の国境を越えた移住に貢献し、韓国での定着過程においては結婚移民女性の時空間的経験の転換とアイデティティの転換の経験などをもたらした。韓国に居住している国際結婚女性とメディアテクノロジーアクターネットワークというブラックボックスを解体することで、メディアテクノロジーだけでなく人間以外の多様なアクター間の相互作用が国際結婚女性の生活の場の移動と転換過程に重要な役割を果たしているといった点を提示できた。そして最終的に本研究の内容と実践的含意を議論した。

Ⅰ.はじめに

国境を越えた人口の移動が資本の移動、交通手段およびメディアテクノロジーの発達とともに持続的に増加している。本研究は、国際移住者を能動的なアクターとして把握する最近の理論的動向を受容しつつ、移住者がどのように移住を決断し、新しい社会に適応し、新たな生活の主体として生まれ変わるのかについて関心を持つ。特に国境を越えた移動を触発し、新たな主体として変わり行く過程におけるメディアテクノロジーと移住者の相互作用に焦点を当てた。

国境を越えた移住者が能動的に新しい生活を開拓していく過程は、既存の社会的関係から他の社会的ネットワークに移動したり、それを新たに構築する過程として捉えることができる。このような移動は人を通じて(inter-human)、もしくはテレビやソーシャルネットワークのようなメディアを通じて(inter-media)なされる。多くの先行研究では、国境を越えた移住者がメディアテクノロジーを通じて本国の家族や同じ国の出身者から心理的・情緒的に支えられ、移住や定着の過程において多様な役割を果たすのに必要な知識と情報を獲得し、社会的関係の拡張を果たすことを確認した(キム・ヨンスン、イム・ジヘ、チョン・キョンヒ、パク・ボンス、2014；パク・ミスク、キム・ヨンスン、2013；チェ・ジニ、チュ・チョンミン、2014)。しかし、このような 国境を越えた移住とメディアテクノロジーに関する先行研究は、メディアテ

＊2017年度九州大学韓国研究センター招へい外国人研究員研究費によって研究を遂行することができた。ここに感謝の意を表する。

1　大邱大学校社会福祉学科教授

クノロジーを国際結婚をして韓国に定住するようになった女性(以降は「国際結婚女性」と表記する)が適応する過程において利用する手段として認識しており、主にその用途と効用に焦点を当てるといった限界を見せている。

近年の刮目に値する技術発展により、メディアテクノロジーは情報と交流の手段としての役割のみにとどまらず、現代人の生活全体に多大なる変化をもたらしている。例えば、パソコンとインターネットが作り出すサイバー空間は、人々の時空間的経験に変化をもたらしており、これは予想だにしなかった人間関係の様式や質にも変化を加えている。現代社会におけるテクノロジーは、人間が活用することのできる道具としての役割にとどまらず、人間による生活の多様な側面に意味深長な変化をもたらす行為能力を備えていることが分かる。したがって、国際結婚女性とメディアテクノロジーのつながりや関係を考察する場合、道具としての役割を超え、これらが結んでいる様々な関係より発生する相互作用が国際結婚女性の生活に与える影響に注目する必要がある。

国際結婚女性の生活におけるメディアテクノロジーの役割を理解する際には、アクターネットワーク理論が分析に対する有用な概念的枠組みを提供する。アクターネットワーク理論は、我々が社会を十分に理解するためにはテクノロジー、文化コンテンツ、法と制度、イメージ、テキスト、ディスコースなどの「人間以外(non-human)」の行為性(agency)に注目しなければならないとしている。既存の理論では社会的な現象を理解するときに人間の行為のみを扱ったが、アクターネットワーク理論では、社会とは人間と人間以外のアクターによる異質的な結合を通じて構成されるネットワークの世界として認識する。人間のみならず人間以外も変化の仲介者であり、対等な存在として分析されなければならないという立場をとることにより、他の一般的なネットワーク分析とは差別化される。

右のような観点に立つ場合、国際結婚女性がテレビやパソコン、インターネットのようなメディアテクノロジーとつながりを持とうとすることは、彼女らが単純に一つの機械やテクノロジーを「利用」するのではなく、一連のアクターネットワークに連結されるということを意味する。例として、外国にてある女性が韓国のテレビを見る場合、テレビのアクターネットワークには韓流熱風、ドラマ、音源、文化コンテンツ開発者、韓国の電子製品や化粧品などのような韓国の製品が既に存在していると理解する。このようなアクターネットワークと移住女性とのつながりの関係が始まる場合、これらによる複雑な相互作用がこの女性の価値観と規範、人間関係の様式、理想郷(ideals)、未来の計画、社会的関係網、自我・アイデンティティなどといった彼女らの生活に根本的な変化を惹起するアクターと言える。

以上のような問題意識に基づき、本研究は移住者たちが国境を越えた移住により新たな生活のネットワークを形成する過程において、メディアテクノロジーが一つのアクターとして移住者とどのように相互作用するのかを研究問題として設定した。この研究問題に対する答えを導き出すために、第一に国際結婚女性が移住の様々な段階においてどのようなメディアテクノロジーとつながり関係するのか、第二に国際結婚女性がメディアテクノロジーアクターと形成するアクターネットワークにはどのような他のアクターが参加するのか、第三にこれらメディアテクノロジーアクターとのネットワークは国際結婚女性の生活にどのような変化をもたらすのかといった側面から接近しようとする。

Ⅱ.先行研究の検討

国境を越えた移住に関する多くの研究は社会的ネットワーク理論を採用し、国際結婚女性の移住と定着過程を分析した。国境を越えた移住者に対する社会的ネットワークの役割に注目した既存の研究のうち、多くの場合はメディアテクノロジーの役割に注目していた。国内外の研究においてメディアテクノロジーは、国際結婚女性が移住先の国でネットワークを拡大する道具となるだけでなく、母国の家族や親戚、知人との超国家的な社会的ネットワークを形成し維持するに当って極めて有用なツールであることを示している(キム・ヨンスン、イム・ジヘ、チョン・キョンヒ、パク・ボンス、2014；ソル・ジンベ、キム・ソヒ、ソン・ウニ、2013；チェ・ジニ、チュ・チョンミン、2014；キム・ヨンギョン、2015；Bonini、2011；Madianou & Miller、2012；Law & Peng、2007；Hiller & Franz、2004；Dekker & Engbersen、2012)。

国境を越えた移住と社会的関係の形成におけるメディアテクノロジーの役割に対する先行研究は、既存の社会的関係の維持、新たな社会的関係の形成においてメディアが肯定的な役割を果たしているのを明らかにしたが、移住者自らが新たな生活の経験を再構成し、アイデンティティの転換を経験する実体的な変化に対しては、部分的に示唆するにとどまっている。

国境を越えた移動に対するまた他の観点であるトランスナショナリズム理論(Transnationalism theory)は、移住者の持続的な国境を越えた移動(transnational mobility)とトランスナショナルなアイデンティティ(transnational identity)を可能にする移住者の行動(actions)と経験に焦点を当てている(Portes、Escobar & Radford、2007；Vertovec、2004)。国境を越えた移住者は移住の過程において時間的・空間的転換(temporal and spatial transformation)を経験するが、このような経験と過去に対する社会的記憶(social memories)に基づき、自らの新たなアイデンティティを構成するとしている。このような転換の経験のうち、彼女らがとる態度や生活の選択が、彼女らのアイデンティティの形成と、最終的には新たな環境での適応に直接的な影響を与えるとした(Chen、Zhang、Zhang & Yang、2011)。

本研究は、メディアテクノロジーとそのネットワークが道具的媒体としての役割を超え、国境を越えた移住者と相互作用をするときに彼女らの生活とアイデンティティに変化をもたらすものと捉える。メディアテクノロジーが一つの独立的なアクターとして移住女性とどのように相互作用をするのか、このような相互作用を通じ国境を越えた移住とその定着過程においてどのような役割をするのかという質問を提起しようとする。

Ⅲ.分析の枠組みと研究方法

1.研究の概念的枠組みとしてのアクターネットワーク理論

アクターネットワーク理論は日常の生活にテクノロジーが深く係っている現代の社会現象を理解するのに、新たに有用な観点を提示するものである。本研究の概念的枠組みとして活用したアクターネットワーク理論は、人間や社会、自然といったものを人文学、社会科学、自然科学の側面より別個の研究対象として扱う分離的な観点を否定し、世界を混種的(heterogeneous)な存在として理解する。アクターネットワーク理論は人間の意図や意志が存在してこそ行為が発生するといった既存の二元論的な哲学的立場から抜け出し、人間以外の多様なアクター(テクノロジー、建物、統計データ、文書、文化コンテンツなど)も人間と対等

の行為能力(agency)を備えていると見る(Latour、2005)。

本研究が活用するアクターネットワーク理論の主な概念を以下に示す。第一にアクターネットワークは、アクターの本来的な特性よりは多様なアクターがどのようにつながっているのか、アクター間にどのような相互作用が存在するのかによって行為能力に変化が生じるとする。即ちアクターの行為能力はアクター間の関係(association)が作り出す力、組織化の効果にあるとした(Callon、2005；Callon & Caliskan、2005；Latour、1987；Munro、2009)。人間のアクターが技術的な道具(technical devices)-機材や空間の配列など-と結合し、社会-技術的なアクターの集合(socio-technical assemblage)をなすときに、このアクターネットワークは個々のアクターの行為能力とは大幅に違った他の行為能力を持つことになるということである。ここでの人間以外のアクターとしては、テクノロジーだけでなくテキスト、イメージ、法と制度、統計データ、ディスコースなどを挙げることができる。

第二にアクターネットワーク理論は、アクター間の相互作用をつないだり分離したりするアクターの翻訳(translation)と行動化(action)の力量に注目する。翻訳はアクターがあるネットワーク内に編入されるとき、誰と関係を結びどのようにつながるのかを決定し、ネットワークとして他のアクターと継続して関係を維持するのか、あるいは瓦解させるのかを決定する過程である。翻訳を成功させようとするならば、あるアクターが持っている利害(interest)や意図を他のアクターの利害と意図に符合させるための交渉と調整をしなければならない。翻訳の過程を通じ、より持続的で安定的なネットワークが構築されたとき、ネットワーク上のアクターは相互により大きな影響を与えることができるようになる。人間と人間以外の混種的環境において、人間以外の多様なアクターは重要な中間者(intermediaries)や媒介者(mediators)として人間のアクターをつないだり分離したりする行動化の力量を備えているとする。

第三にアクターネットワーク理論は、ある単一的固体のように見えるアクターの背後には、実際には多様なアクターにより構成されたネットワークが存在するが、これらが通常時にはほぼ表れないとする。アクターネットワーク理論において、単純化され単一的固体のように見える現象、即ちブラックボックス化した現象の裏面において関与している多様な人間や人間以外のアクターを明らかにし、これらが互いにどのような行為をするのかを詳細に記述する過程をブラックボックス[2]の解体と呼び、このブラックボックスの解体がアクターネットワーク研究の核心であると規定した。本研究は「結婚移住女性によるメディアテクノロジーの活用」という、単純にブラックボックス化した現象の裏面に複雑に絡まりあい関係を持っている様々な人間や人間以外のアクターを把握し、これらのアクター間の相互作用を詳細に記述することでこのような関係が結婚移住女性の適応とアイデンティティの形成にどのような変化をもたらしたのかを明らかにする。

2.研究の過程

本研究では2014年1月から2015年2月にかけて中国出身の国際結婚女性と面会し、面接を行った。メディアテクノロジーをより活発に活用している

2 Latourはブラックボックスの概念を人工頭脳学より借用したが、人工頭脳学においてある機会や命令語が既に広く知られているとき、複雑な内容を詳細に図表に描き出さずともブラックボックスとして表示するという。アクターネットワーク理論は、このように疑うことなく取り入れる単純化された社会現象を解体し、この現象に関連するアクターを明らかにし、これらがネットワーク上で行う相互作用が作り出す影響力を詳細に記述する方法論である(Blok & Jensen, 2011)。

ものと予想される国際結婚女性との面接の機会を得るため、韓国教育部の支援により行われていたバイリンガル講師養成課程を修了した国際結婚女性を対象として研究参加者を募集し、彼女らより追加的に研究参加者の紹介を受け面接を進めるスノーボールサンプリング方式を採用した。この過程を通じ、七名の国際結婚女性と深層面接を行った。面接における主な内容は、結婚移住女性が韓国に入国する前と入国した後のメディアテクノロジーに係る経験について質問を投げかけ、韓国社会での適応過程における多様なメディアテクノロジーの活用により、彼女らの生活とアイデンティティにどのような変化が現れたのかを把握しようとした。本研究を進める前に、所属機関の生命倫理審議委員会の審査を経て承認を受けた。

研究参加者は中国出身の国際結婚女性に限定した。中国出身の女性に限定した理由は、メディアテクノロジーを活用する程度は一つの国家のメディアテクノロジーの発展水準と緊密な関係にあるため、類似した条件にある研究参加者を比較分析するためである。韓国出入国外国人政策本部の統計(2016年)によると、中国人(韓国系中国人および漢族の中国人)が国際結婚女性全体の半数以上を占めているため、もっとも大規模な送り出し国である中国から来た移住女性を選択した。特に韓国系の中国出身者の場合、中国語および韓国語の使用が可能であり、韓国社会での適応過程においてメディアの利用がより活発であると判断されるため、メディアの活用と関連行為を研究するには最も相応しいと考えられえる。しかし一つの国家の出身者からサンプリングを行ったため、本研究の結果を他の国際結婚女性の集団に対し一般化して適用するには限界がある。

本研究の主な資料収集の方法は深層面接である。全ての面接は一時間三十分以上にわたり進められ、各研究参加者に対し一回から三回の面接を行った。深層面接の過程では、研究参加者のメディアテクノロジーとの接触の経験に関する様々な経験を聞き出すため、半構造化面接を実施した。

本研究への参加に同意した研究参加者の略歴は<表1>に詳しい。研究参加者の氏名は個人情報保護のために仮名で処理され、研究結果と直接的に関係のない情報に関しては、省略もしくは一部を加工した。<表1>にある七名の研究参加者のうち、六名が韓国系の中国出身女性であり一名が漢族の女性である。研究参加者は韓国での居住期間が八年以上で、面接の過程における意思疎通に十分な言語能力と文化的理解度を備えており、韓国において多様な適応の段階を経験したのでメディアテクノロジー活用の変化に富んだ過程を聞き出すことができた。七番の女性の場合、移住労働者として入国し、韓国人男性と結婚した。五番の場合には、

<表1> 研究参加者の略歴[3]

番号	氏名	韓国での居住期間	配偶者の有無	子どもの数	職業	出身国籍(現在の国籍)	居住地
1	キム・スッキ(김숙희)	16年	有り	2	バイリンガル講師	中国	安東市
2	キム・ミスク(김미숙)	17年	有り	2	バイリンガル講師	中国	大邱広域市
3	パク・ミスク(박미숙)	8年	有り	1	バイリンガル講師	中国(韓国)	亀尾市
4	クォン・スッキ(권숙희)	18年	有り(再婚)	4	翻通訳士	中国	永川市
5	キ・ジニ(기진희)	18年	有り	2	バイリンガル講師	中国	慶山市
6	アン・ミヨン(안미연)	12年	有り	1	バイリンガル講師	中国	義城郡
7	カム・ギスク(감기숙)	8年	有り	2	バイリンガル講師	中国	永川市

3　研究参加者の個人情報保護のため、全ての人名と地名は可能な限り仮名で処理し、研究参加者ごとに特定の事実は部分的に省略、もしくは加工した。

中国に留学した韓国人男性と中国語教師と学生という関係で出会った後に結婚し、韓国に移住した。他の五名の場合、結婚仲介業者を通じて結婚に至った。

3.分析結果

1)韓国の発見:美化と羨望

研究参加者はメディアを通じて韓国と出会った。テレビで見た韓国は「オリンピックの開催地」であり、「良質の電子製品と高級化粧品」であふれていて、ドラマの中の人物は「豪華な家に住み、洗練された服を着て」いる美しく豊かな場所であった。彼女らの目に映った韓国人は情緒的に「自由な」人々であった。そして研究参加者たちにとって韓国は、機会さえあれば訪れてみたい国であった。留学を夢見たり就職も一つの方法として考えたが、良い人さえいれば結婚して住んでみたい国として羨望の対象であった。

(1)テレビとのつながり：不毛な現実とテレビの中の魅力的な生活(Glamorous life)

経済的な辛さ、家族関係における葛藤、劣悪な環境など、不毛な暮らしに疲弊した研究参加者を魅了したのはテレビやビデオの映像に映し出された韓国の姿であった。研究参加者は映像を通じて接した韓国を「先進国の位相」を備えた国、「華麗さ」、「豊かさ」、「洗練さ」、「自由さ」などと表現した。これらの表現には自らの疲弊した生活では満たすことのできない欲求が表出されていた。

研究参加者がテレビドラマや映画、音楽などに魅了されたとき、彼女らは巨大な韓流文化コンテンツの製作産業や供給産業、国際社会において韓国の位相を高めようとする韓国政府などが含まれた韓流文化コンテンツのアクターネットワークに編入されていた。韓流文化コンテンツ事業は、観光や韓国製品の販売に対する莫大な産業的シナジー効果と、国家イメージの創出に重要な役割を果たして来た強力なアクター（アン・ジヒョン、チョン・チョル、2014)である。テレビが伝える韓国のイメージは、彼女らの不毛な生活がもたらす疲労感と寂寥感、脱出口に対する熱望、新たな生活に対する好奇心に、慰労と希望と開放感を約束して接近した。

(2)テレビの同盟者たち：帰国した移住労働者と韓国製品

韓国から戻って来た親戚や移住労働者は韓国について「金稼ぎに良い」、「実入りが良い」などと賞賛を惜しまなかった。一般的に移住地から戻って来た人々は、移住の経験やその地での暮らしに対し美化された記憶を示す傾向があるという(チェ・スホン、2014)。しかし研究参加者にとって彼らの言葉は、テレビを通じてメディアテクノロジーが描き出す「韓国の約束」を再確認させてくれるものとして認識した。

韓国から戻って来た人々が持ち込んだ時計や化粧品、カメラのような韓国製品も、テレビジョンアクターネットワークが形成した韓国のイメージ-豊かさ、洗練さ-に符合するようであった。中国で暮らす日本人が韓国製の電気炊飯器を使うのを見て、韓国がどれほど発展しているのかをより実感することができた。時には韓国から戻って来た人々から、詐欺や賃金未払いなどの否定的な話を聞きはしたが、既にテレビジョンアクターネットワークが形成した韓国のイメージに取り込まれ、韓国行きを夢見る女性たちにはそのような言葉が耳に入ってこなかった。

不毛な暮らしの現実に疲弊し閉塞感を感じていた女性たちにとって、テレビとの出会いは韓国行きの計画を行動に移すこととなる出発点であった。

韓流熱風を作り出した韓国の文化産業は、強力な文化的媒体で貧困や葛藤、喪失のような辛い現実から逃れることを渇望する研究参加者の幻想にアピールする巨大なアクターであった。

女性たちの韓国行きが現実のものとなるためには、テレビジョンアクターネットワークに国境を越えた移動を可能にする制度が結合されなければならない。女性たちにはこのような移動を可能にする三つの選択肢-留学、移住労働、国際結婚-のうち、結婚が最も容易であると考えたのが見て取れる。テレビジョンアクターネットワークが女性たちの国境を越えた移動を可能にするためには、巨視的な次元のアクターの参加が必要であった。韓中国交正常化がなされ、この時期の韓国内における都市化や国内での人口移動(internal migration)、労働市場の変化は、これ以降の時期における外国人の韓国への移住機会の拡大に大きく貢献した。このうち、国際結婚は女性として国境を越えた移住をするうえで最も迅速に行える選択肢であった(キム・ヘソン、2014)。研究参加者のうち、五名は結婚仲介業者や知人の紹介を受けて出会った韓国人男性との短い交際期間を経て結婚し、韓国に入国した。キム・ミスク氏は在中国同胞就業ビザで韓国に入国したが、在留期間が終りを迎える頃に韓国人と結婚して定着することとなった。キ・ジニ氏は中国に留学に来た韓国人男性と結婚し移住することとなった。

本研究のために面接を行った女性に対し、テレビジョンアクターネットワークは現在の暮らし以外の新しい生活の方式、人々との関係の様式、美学の基準、享有することのできる幸せにどのようなものがあるのかといったことに対する可能性の空間を押し広げた。多くの人々はテレビが与えてくれる一時的な幻想と楽しさに満足してつながることを止めてしまったが、研究参加者はその可能性を実現するためにまた他のアクターとつながることとした。韓中間の国交樹立は人的交流を容易にした。嫁を迎えるのが難しい農村の独身男性が抱える問題を、国際結婚の周旋を通じて解決しようとする地方自治体や文化交流団体などの積極的な態度が、国際結婚移住というアクターネットワークの構築に寄与した。

2)韓国の再発見：当惑感と再度の脱出

研究参加者はメディアを通じて韓国と出会った。テレビでみた韓国は「オリンピックの開催地」であり、「良質の電子製品と高級化粧品」であふれていて、ドラマの中の人物は「豪華な家に住み、洗練された服を着て」いる美しく豊かな場所であった。彼女らの目に映った韓国人は情緒的に「自由な」人々だった

(1)テレビとの新たなつながり

研究参加者が出会った韓国での生活は、故郷でテレビを通じて接していたものとは極めて違っていた。「(精神的)崩壊状態」をもたらすほどに韓国での配偶者の経済状況は劣悪で、文化の違いによって生じる配偶者や配偶者の実家との葛藤、言葉の問題、社会的な疎外感と差別による就職の難しさなどにより、韓国社会に適応することが衝撃として接近して来た。農村に暮らす結婚移住女性たちは都市地域に住む結婚移住女性よりも地理的な特性により外部と断絶しているため、これはより切実な問題であった。その上に様々な心理的、社会的不適応に係る問題を抱える配偶者の姿も見られた。大都市の華麗さも、経済的な豊かさも、機会の土地も、情緒的な自由さも虚像であったことを彼女らはすぐに悟った。

研究参加者は当惑し恐れを抱くまでの対象となった現実に対処しようと、最も手軽に接近できるテレビジョンアクターネットワークと再びつながるようになった。チョ・ソンホ、パク・ヒスク(2009)の研究によると、社会的に孤立した国際結

婚女性は寂寥感ただよう日常を満たすために、先ず始めにテレビを選択するという。過去のテレビはニュースやバラエティー、スポーツなどの情報伝達と、余暇・娯楽などの機能を備えていたが、テレビでの「ホームショッピング」が始まったことで「消費を通じた満足感」の機能が追加された。面接対象者であるクォン・スッキ氏にとってホームショッピングは、情緒的な寂しさと「うつろさ」を解決してくれるので、「ホームショッピング」機能との連帯を選択した。ホームショッピングは新たな世界であり、目にすることが無かった製品、あこがれていた商品を目で見て手に入れることができる機会を提供した。ただ、その代価は残酷さであることを後で知ることとなった。

また他のメディアの利用、メディアとの相互作用の事例にも接することができた。研究参加者のパク・ミスク氏は、本国の家族に対する経済的な支援をしなければならなかったが、結婚後に予定より早く妊娠することとなり、また外国人のため就職も簡単ではないといった事実を悟ることとなり、「(メンタルの)崩壊」を経験することとなった。自身を簡単には信頼してくれない配偶者との関係も円滑ではなく、研究参加者はまるで「罠にかかった」ような経験をすることとなった。このような状況の中で研究参加者は配偶者との関係回復のため、「夫婦和解プログラム」のようなテレビジョンアクターネットワークにおける知識機能を積極的に活用した。

本研究への参加者が母国にいた頃のテレビは、一時的な幻想ではあったかもしれないが「コリアンドリーム」という新たな生活の形態と様式を提示し、これのを追い求めるための行動化を引き出したアクターネットワークであったように、新しい社会に侵入した後のテレビのショッピングチャンネルや教育チャンネルは、国際結婚女性との相互作用を通じて彼女らから新しい「消費」、「人間らしい暮らし」の規定と「関係の様式」の実践を引き出したアクターだと言えるだろう。

(2)パソコン・オンラインメディアとのつながり：転換的経験(transformative experience)

研究参加者が韓国に移住したのち、彼女らは社会的な疎外を経験したり、母性と家事といった伝統的な役割に押し込められたり、就職への挫折に直面したが、このときにコンピューター（パソコン)アクターネットワークは彼女らを新たな世界へ導いた。

研究参加者がコンピューターアクターネットワークに編入されるに当り、いくつかの人間以外のアクターが仲介者の役割を果たしたが、そのうちの韓国政府の多文化家族支援政策は重要なアクターであった。結婚移住女性に集中していた多文化家族政策は、中央政府の部署と自治体、社会サービス機関などの様々な主体を通じて多様な初期定着支援を行ったが、その中でもパソコン教育を韓国語教育と併せて基本教育プログラムとして提供したことで、彼女らがコンピューターアクターネットワークに編入されるのが容易になった。

研究参加者にとってコンピューターは、未だに花を咲かせていないコリアンドリームの可能性を垣間見ることのできる窓の役割をし、家族という枠組みによる抑圧から自由となり、自己発展に対する期待を刺激してくれる人々との出会いの機会も提供した。

パソコンとその後に続くオンラインネットワークは、彼女らに生活の地平の変化(topological change)をもたらす転換的経験(transformation experiences)であったと認識できる。研究参加者が述べた経験は、大きくは超空間的転換(trans-spatial transformation)、超時間的転換(trans-temporal transformation)とアイデンティティの転換(identity transformation)の経験として要約できるであろう。

①超空間的転換(trans-spatial transformation)

研究参加者は韓国での適応における必要な主なアクターとしてパソコンを挙げた。夫、パソコンスクール、多文化家族支援センターなど多様なチャンネルを通じてパソコンに触れることとなるが、パソコンはより広い世界への扉を開き、暮らしの地平を広げてくれたアクターであったと言及した。

研究参加者のアン・ミヨン氏は相当に隔絶された農村地域で暮らしているが、家族は彼女が外出することや、もしくは本国の家族に電話することすら好ましくないと考え、「子どもを育てながら閉じ込められた」生活を送っていた。夫を通じてパソコンを扱う方法を学んでから先ず初めに行ったことは、グーグルマップを利用し「ソウルの地下鉄、バスの路線、大きな建物」のような遠くの開かれた世界を見ることであった。

研究参加者にとってパソコンは、暮らしの境遇の拡張をもたらしてくれたありがたいアクターであったと認識されている一方で、配偶者にとっては不安と警戒心を呼び起こすアクターであった。国際結婚女性が多様な情報を得ることで、伝統的な家族の枠組みに満足できなくなると懸念する夫は、国際結婚女性とパソコンの接触において障害になりもした。

パソコンを通じてつながったインターネットは、国際結婚女性にとって母国にいる家族、親戚、知人との距離と費用といった障壁を越えて、国境を越えた交流と情緒的な連帯を可能にした。ビデオ通話は互いの顔を見ながら映像で実際の生活を見せることができるので、「異国の地で寒いだろうに…」などと話しながら空間的距離を狭め情緒的な共感を可能にし、彼女らの「凍った心」を温めてくれる役割を担った。インターネットは個人的な交流だけでなく、母国のニュースもリアルタイムで提供することで空間的に共同体空間の境界を拡張した。インターネットは母国との間において、情報と疎通の双方向的な流れを可能にした(イ・サンフン、キム・ウンギュ、2015)。結婚移住女性が情緒的にも社会的にも、韓国と中国を同時に経験する国境を越えた移住者としての生活を可能にした。

研究参加者の多くは家族に対する経済的、心理的な責任を背負って母国を発ち、その責任は新しい世界においてもくびきのように彼女らを圧迫した。しかしパソコンが開いてくれた生活の経験は、彼女らと母国の家族や親戚との関係に対する認識と行動に転換をもたらした。「ビデオ通話をつけるときは、慰めてほしいからつけるんでしょう。話すたびにやれ大変だ、やれどうしたと言うならつけなければいいんだし…」(キム・スッキ)。これより分かる通り、強い義務感と責任という伝統的な家族観から少しずつ抜け出し、関係の方式と関係の属性が自身の要求と符合するかどうかによって「オン」と「オフ」を使い分け、自らの統制の下にある領域だと認識する独立的なアクターとして変化していく様子が見て取れる。

ⅰ)差別のないサイバー空間

本研究への参加者は、インターネットを通じたサイバー空間には国境もないが「移住者」という身分的関係もなく、ネチズンとして誰とでも対等に入場可能な差別のない空間であることを発見した。研究参加者は韓国に入国した直後の就職活動をする過程で外国人という理由から拒絶され、隣人からの目に見えない差別や仲間はずれの経験もしたが、インターネット空間は「障壁と差別がない空間」であり、匿名性が与えてくれる自由さと、関係性の形成に必要な費用も少なく済むといったことを発見した。

研究参加者は多様なサイバー空間においていつ、誰と、どのようにネットワーキングするのかを取捨選択し、他のアクターをこれによって配置しサイバー空間を行き来した。ある研究参加者は、移

住の初期段階において、国際結婚女性関連のインターネット掲示板にて彼女が必要とする情緒的な支持と育児、就職などに関する情報を得たと述べた。彼女はインターネット掲示板にて似たような経験をした人々の間での「共感」といった資源により力を得て、次の段階への適応と挑戦に備えることができたとした。ネチズンの匿名性を利用し少しずつサイバー空間を拡張していき、一般の韓国人のための就職情報サイトや教育情報サイトにその場を移したりもした。サイバー空間においてどのアクターネットワークとどのように関係するのかについては、研究参加者自身のアイデンティティ、暮らしへの欲求、解決方法の規定による戦略的で自立的な選択に関する事案であった。

国際結婚女性はテレビ、パソコン、インターネットの次にスマートフォンを重要なアクターとして挙げた。スマートフォンは既存のインターネットを通じたサイバー空間(ブログ、インターネット掲示板)とは違い、利用者の日常生活により密着していながら、オンラインだけでなく実際の生活における対人関係に変化をもたらした(チェ・セギョン、クァク・キュテ、イ・ボンギュ、2012)。研究参加者は「kakaotalk」や「WeChat」、「QQ」などのスマートフォン用アプリが備えた長所や短所、地域性を選別的に活用し、交流の場を拡張した。

また一方では、フェイスブックのサイバー空間とつながることで、国境を越えた文化の仲介者(cultural mediator)として自身の役割を効率的に構築していった。研究参加者の一人は、近頃グローバル化が学校や自治体の主な評価指標の一つとなっているので、教師や地方公務員が国際交流活動を開発しなければならないといった点と、このような社会的雰囲気において自身の持つ文化的な背景と母国との人脈が、韓国社会において自信になっているとした。そして韓・中文化コンテンツと文化交流イベントを開発することを自身だけの適所(niche)として認識し、自らの二重的な文化の背景を積極的に商品化している。この研究参加者はフェイスブックが中国では遮断されているため、実際には韓・中交流の場としては適切ではないということを認識してはいるが、彼女への主なフォロワーは中国外にいる中国文化の消費者であることを知っているため、文化交流の場としてフェイスブックを選択した。フェイスブック、ツイッターのようなSNSが文化コンテンツの形成と国境を越えた共有に最も効果的な空間であるといった点(イ・ジウン,ソン・ドンギュ、2013)を十分に活用しているものと見られる。この研究参加者は自らのフェイスブックに韓国の公務員、教師、教授、詩人、画伯、宗教家などを「特別な方々」として選別しており、中国の古典漢詩や書画などの文化コンテンツで自身の「サイバー展示場」を品格を備えた姿にアレンジし、自身が関与した韓・中青少年芸術団による交流活動を紹介する内容を配置することで、韓・中文化の時代と空間を行き来する文化的媒介者としての役割を効果的に際立たせている。

ⅱ)サイバーラーニング:より高く飛翔するための足掛かり

研究参加者はパソコン、インターネット、SNSなどとのつながりの形成を通じ、人間や人間以外のアクターとのネットワークを拡張することができた。しかし、研究参加者はその後すぐに韓国が学歴と各種の資格に支配された社会だということを認識することとなり、韓国の「主流社会」に進入するためには大学卒業といった公式化された制度とも「つながり」を持たなくてはならないことを悟った。移住女性の先輩の話により、通信制の大学である放送通信大学が彼女らが進入するには障壁が低いということ、また大卒という学歴は主流社会への仲介者であり、自我を実現することが飛躍への足掛かりであるということを認識した。あ

る研究参加者は、「(大学は)霧の中にいた私が歩いて出てこれるように…」してくれたとしている。メディアテクノロジーアクターネットワークを通じ、女性自身が生活の転換を経験し、自らを見つめる視線が変わったことで、疑いを持っていた夫もついには研究参加者のネットワーク拡張に対する障害ではなく、妻を背中から押す追い風となった。

②超時間的転換(Trans-temporal transformation)

研究参加者にとってパソコンとの出会いは物理的、社会的空間を拡張してくれた経験だけでなく、社会的な時間をも行き来する経験にもなった。パソコンは、隣人のおばあさんが話す昔話から離れ、新しい情報と知識の宝庫への移動を可能にし、薄暗い過去の幻影から未来の希望へと移る契機を作った。依然としてアナログ時代であった母国の学事管理システムにより足を引っ張られていた状況から解かれ、デジタル時代によって機会の扉が開かれもした。

ある研究参加者は山の頂付近の辺鄙な地域に住むこととなったが、家族が働きに出てしまうと、周りにいるのは隣人である二人のおばあさんだけであった。一人のおばあさんは、自身が経験して来た韓国の近代史を「中国人の嫁」に話すことをとても楽しみにしていた。しかしコリアンドリームを夢見ている「中国人の嫁」にとっては、パソコンを通じて学ぶことのできる山里の外の世界の生活-都市、大きな建物、多様なライフスタイル、機会など-に対する情報と知識がより驚きに満ち、好奇心を引き起こしてくれるものであった。

また他の研究参加者は、家族全体の生活に責任を負っていた長女であった。家族に対する責任により、自身を犠牲にしながら暮らした後に韓国に嫁いだが、夫も過去に負った傷により未だに立ち直れないでいる状態にいることを知ることとなった。彼女らはそのような状況から立ち上がることができず、長い間に渡って自らを卑下したり、飲酒や自己非破壊的な行動、夫婦喧嘩をしながらもがき続けた。しかし、パソコン-インターネット-外部の世界とつながっているアクターネットワークは、彼女を大学と結び付けてくれた。彼女は教育を受けながら少しずつ、自身を縛り付けている過去の鉄枷を認識することとなった。また、多文化に関するインターネット空間での交流と教育課程を通じ、この研究参加者は自身の未来に対する希望と目標を具体的に描くことができるようになり、彼女が過去に負った傷から立ち直りながら、夫も過去の傷から立ち直れるように助けることができた。

③アイデンティティの転換(identity transformation)

移住直後の研究参加者は、自身が韓国で行える仕事は家事や単純労働だけだと考えていた。しかし、パソコンとの出会いとメディアテクノロジーアクターネットワークは、それまで研究参加者を押さえ付けていた恐れや絶望を徐々に取り払った。新たに習得したパワーポイントを扱う技術は人気中国語講師としての自身の姿を想像させ、新たに取得したパソコンの資格は遠くに感じられていた就職という目標が手に届くところまで来ていることを感じさせた。

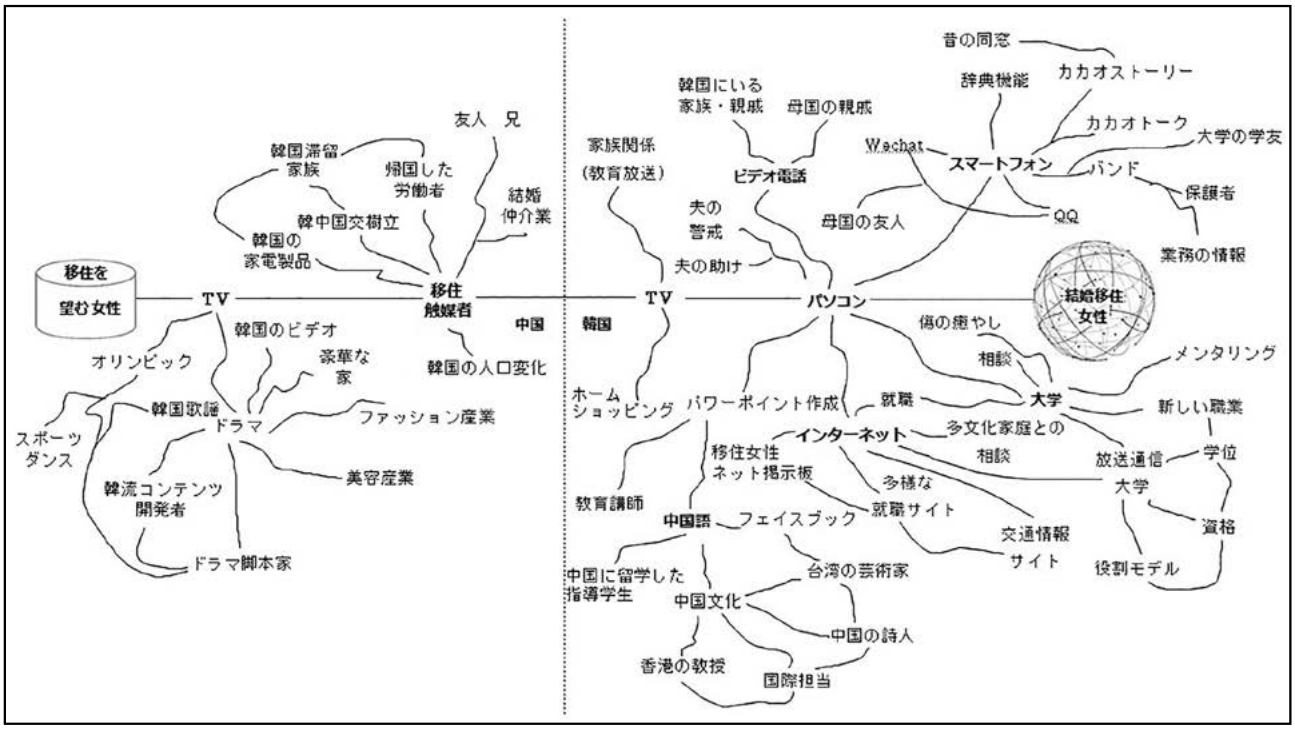
移住後の初期に研究参加者は、自身が持つ中国というバックグラウンドを捨て、韓国文化とライフスタイルを可能な限り早く習得することが韓国での適応に役立つと考えた。このような状況のもとある研究参加者は、移住女性に関するインターネット掲示板や中国出身の女性たちとの交流を絶ちもした。しかし研究参加者のプライドが回復したことで、彼女らが持つ中国/韓国といった二重の文化的アイデンティティは貴重な資産であることを悟り始めた。特に国際社会における中国の政治・経済的位相が急激に大きくなるにつれ、中国語が彼女らの暮らしを改善するのに重要なアクターと

なることを認識し始めた。この時期に韓国の多文化政策が同化主義からグローバル人材資源に関するディスコース[4]へと変化したことも、彼女らの役割の拡大と韓国人の隣人の視線の変化に影響を与えた巨視的な文脈であったといえよう。パソコン-インターネット-資格と、学位-中国の位相の変化-多文化政策ディスコースの変化と連結したアクターネットワークは、研究参加者にとって「バイリンガル言語講師」という新たなアイデンティティと機会を付与した。

研究参加者は、自己認識と社会的な活動の領域が変化した結果、彼女らの出身国、移住者、国際結婚女性、恩恵を受ける対象などといったいくつかの外形的な特徴によって、彼女らのアイデンティティが規定されるのを望まなかった。移住直後には韓国人として受け入れられたい欲求が大きかったが、ある研究参加者が「国際結婚女性は私たちのアイデンティティのごく一部に過ぎないでしょう。私は私として暮らしたいだけで、その前に何らかの修飾語がついた状態で暮らす理由はないでしょう。」と述べたように、現在は過去より相当に拡大化され個別化した自我として認識されることを望んでいるのを見て取れる。それだけでなく、母国と移住先との間に存在する国境を超えた移住者としてのアイデンティティから、より拡大し多様な人々とふれあいながら暮らす国境を越えたアイデンティティが形成されていっている。

3）国際結婚女性とメディアアクターネットワークブラックボックスの解体

図1はここまでの国際結婚女性とメディアとの



<図1> 国際結婚女性とメディアとのネットワークブラックボックスの解体結果

4　グローバル人的資源論は、多文化家庭の子どもたちの、バイリンガル環境の形成と双方向的な文化理解を支援するプログラムであり、急激に拡張する契機を提供した（女性家族部、2016）。

ネットワークというブラックボックスを解体した結果を要約したものである。

人間は誰もが自らの生活を向上させたいと思っている。グローバルな移動が徐々に容易になりながら、移住も個人の生活を改善する一つの戦略的選択肢となった。用いることができる資源がそう多くはない女性にとって、結婚移住は制限された中での代案の一つであろう。

研究参加者は母国において韓国に関する情報を、韓国のテレビプログラムやビデオのようなメディア媒体を通じて取得した。メディア媒体は受信者の要求に合わせコンテンツを提供するというが、移住を望む女性が選択することのできる韓国に関する文化コンテンツは、情報の提供という属性よりは地域の消費者のエンターテイメントを主な目的とし、韓流文化コンテンツの供給者により選別され、相当に一方的な関係であった。研究参加者が「韓流文化コンテンツ」を販売するメディアアクターネットワークにつながった際の意図していなかった結果の一つは、彼女らの韓国への移住という行為であった。

外国の女性がテレビとつながるとき、そのメディアアクターネットワークの裏面にはいくつかの強力なアクターが隠されている。エンターテイメント製作会社、ファッション産業、美容産業、家電製品、化粧品、カメラなどの韓国製品といった人間以外のアクターもあり、ドラマ脚本家、韓流スター、韓国を訪問して来た知人、帰国した移住労働者や留学生のような人間のアクターも存在する。彼らは韓国のイメージ、韓国人のライフスタイルと関係の様式などをメディア媒体上に再現し、これらとの相互作用は外国の女性にとって自らの生活の意味と生活における行為戦略に対する新たな考え方を形成するのに影響を与えた。韓中国交樹立、韓国社会の労働力と女性配偶者の不足といった巨視的状況と、このような需要を充足させようとあっという間に形成された結婚仲介業などは、女性がメディアテクノロジーアクターネットワークとの関係を媒介として移住することを実現可能にした。

韓国への移住後にも研究参加者はテレビとの関係を通じて世界を見つめた。しかし孤立した状況でのテレビによる一方向的な相互作用の関係は、すぐさまパソコンとの出会いによってその影響力を失っていった。パソコン、インターネット、スマートフォン、SNSのようなメディアテクノロジーは、彼女らを社会的な隔離から連れ出し、もう少し双方向的な社会的相互作用を可能にさせ、彼女たちの時空間的な経験の領域を大きく拡大させた。メディアテクノロジーは母国の家族と知人と国境を越えた交流を可能にし、彼女らの時空間的経験の領域を大きく拡張した。メディアテクノロジーは母国の家族と知人との国境を越えた交流を可能にしたり、地理的な制約無しに多様な人々とのつながりを可能とする新たな空間的経験をもたらしただけでなく、社会的空間の経験も大きく変化させた。多様化したメディアテクノロジーアクターは研究参加者のサイバー空間への扉を開き、サイバー空間で得られた情報と人的ネットワークは、現実の空間へも容易に移転させることができた。研究参加者のオンラインにおける経験が日常生活の空間と重なったときにより大きな効果を発揮し、新たな次元の人間関係と機会の窓が拡張し始める。

研究参加者はアナログ的な社会での位階性、閉鎖性、障壁、断絶の経験からデジタル社会への移動を通じて移動性、水平性、開放性、自由さ、可能性の拡張を経験したと見ることができる。これは研究参加者の想像力、機会、関係の領域を拡張する転換的経験であった。また、研究参加者はサイバー空間におけるつながりの関係の形成に対する経験を通じ、それまでの人間関係に対する認識も再解釈するに至った。伝統的な家父長的家族関係において女性に強制されていた責任、義務、犠

性から少しずつ自由になり、自身の欲求と潜在的な可能性に対し考えることが可能になった。そしてより能動的な生活の主体として関係の方式を新しく試みる様子を見せてくれた。メディアテクノロジーアクターネットワークによって開かれた新しい時空間的な経験は、研究参加者にとって世界と、人々と、自身との関係における意味の変化をもたらした。研究参加者はメディアテクノロジーアクターネットワークがもたらした時空間的な生活の地平における変化を経験し、自らのアイデンティティを再認識することとなった。サイバー空間におけるネチズンとして享有する自由と水平的な関係の経験は、萎縮していた自我を回復させた。研究参加者がメディアテクノロジーアクターネットワークにより社会的関係を拡張し、その過程において一連の成功経験を蓄積していった結果、彼女らはそれ以上孤立し「元気が無く」、「寒い」移住者や温情の対象、「結婚移住女性」としてのみ規定されるよりは、一層自律的で能動的な一人の個人として認められることを望んだ。また、彼女らは国籍や人種、法的地位などを越え、多くの人々と共感することのできる「国籍を超えた人」としてのアイデンティティと行為様式を形成した。

結婚移住女性のメディアテクノロジーアクターネットワークというブラックボックスの解体により、テクノロジーが持つ意味と影響力がこのアクターネットワークに参加する多様なレベルの人間以外のアクターとの相互作用、即ち社会的文脈もしくは彼女らの生活に重要な役割を果たしていることを確認することができた。韓中国交樹立、中国の位相の変化、韓国社会における人口の変化と移動、文化の国際的移動と商品化、韓国の多文化家族政策と政策ディスコース、学歴社会のような巨視的次元のアクターも存在し、組織機構における評価指標、多文化教育プログラム、資格制度、外国語教育と留学熱のような中位的な水準のアクターもメディアテクノロジーと結婚移住女性との相互作用に影響を及ぼしていることが分かる。もちろんこれらに加え微視的水準での結婚移住女性自身の行為性(agency)と、彼女らがつながっている多くの人間のアクターの行為様式や社会的規範もネットワークの安定性と影響力の程度において重要な役割果たしているアクターであったことは間違いない。

IV. おわりに

アクターネットワーク理論においてテクノロジーが行為能力を備えるということは、テクノロジーがアクターネットワークの中に位置するとき、人間のアクターのみならず他の多様な人間以外のアクターと相互作用をしながら互いを変化させる影響力を与え合うということである。速い速度で変化する現代社会において、テクノロジーが介入しない人間の暮らしは存在しないという点を認識し、本研究は社会現象の研究において科学と社会を分離した別個の研究対象として見るのではなく、人間とテクノロジーのような人間以外のアクターが結ぶ複雑な関係に注目することを提案したという点で意味を持つ。結婚移住女性とメディアテクノロジーに関する先行研究においては、インターネット、スマートフォン、テレビなどの道具的機能と役割を分析することで、結婚移住女性の適応を理解する上である程度の成果があったが、本研究は結婚移住女性の移住の決定と韓国での定着という複合的な経験と過程におけるメディアテクノロジーの行為性とその役割をより深層的に理解することを試みた。

本研究はメディアテクノロジーが外国人女性の韓国への移住の決定と適応の過程においてどのような役割を果たしているのかという質問から始まった。国際結婚女性によるメディアテクノロジーの利用という単純化された観察を解体する過

程において、本研究は移住と適応という大きな変化の過程におけるメディアテクノロジーが女性の暮らしの経験と意味の認識、アイデンティティなどの転換に重要な役割を果たしているという多様な根拠を明らかにした。また、メディアテクノロジーアクターネットワークとつながっている多様な巨視的、中位的、微視的水準のアクターを探求し、それらの役割を考察したという点において、既存の研究とは差別化された新たな理論的観点からの有用性を提示したといえよう。

本研究の結果は多文化家族のための社会サービスに対する実践的な含意と示唆も提示する。社会サービスは主に対人関係(interpersonal)中心的な社会的介入として認識される。なので社会サービスと関連した研究は、サービスの対象者という人間のアクターの特性に関する理解とこれに基づいた対人サービス戦略(個別相談、事例管理など)に関する議論が中心であった(キム・イソン、キム・ミンジョン、ハン・ゴンス、2006；ソル・ジンベ、キム・ソヒ、ソン・ウニ、2013)。しかし、本研究の結果から、人間のアクターだけでなく、人間以外の多様なアクターの行為性が個人のアイデンティティ、安心感、対人関係、世界観に影響を及ぼすことを確認できた。情報と技術としての人間以外のアクター（例としてパソコン教育、資格取得プログラム、就職のための技術訓練など)は、サービス対象の自我観、世界観、関係の様式に影響を与える、単なるサービスの産出物以上の行為性を持つといったことが分かった。また、テクノロジーのような人間以外のアクターが、人間のアクター間の相互作用や共同体意識とつながるときに、その成果が拡大されるという点も確認でき、具体的な技術教育をサービス参加者間の共同体意識、利他心のような社会的資本の形成のための介入と接合させる努力が必要であることを示した。本研究の結果はサービスの伝達過程にて関係する人間以外の多様なアクター -政策ディスコース、政府の法規や行政の条例、地域社会における文化や規範など-が行為性を持つといった点と、社会的な介入過程を最適化するためにはこのようなアクターとの関係性を考慮する必要があるということを提示した。

アクターネットワーク理論は日常にテクノロジーが深く根付いている現代の社会現象を理解する際に、テクノロジーの役割を深層的に扱うといった点から有用である。しかし前述した人間以外の多様なアクターは現在まで社会科学の研究において「社会的文脈」として理解されて来たという点から、アクターネットワークにおける人間以外のアクターの行為性と先行研究における文脈の影響との差別性に対する持続的な議論が必要であろう。

参考文献

<英語文献>

Blok, A. & Jensen, T. E.（2011）. Bruno Latour: Hybrid thoughts in a hybrid world. London. Routledge.

Bonnini, T.（2011）. The media as ‘home-making' tools: LIfe story of a Filipino migrant in Milan, Media・Culture & Society, 33（6）:869-883.

Callon, M.（2005）. “Why virtualism paves the way to political impotence: A reply to Daniel Miller's critique of the Law of the markets”, Economic Sociology, 6（2）: 3-20.

Callon, M. & Caliskan, K.（2005）. “New and old directions in the anthropology of markets” paper presented to Werner-Gren Foundation for Anthropological Research, New York.

Chen, S., Zhang, Y., Zhang, H. & Yang, R.（2010）. “The transformation, adaptation, and self-identity of new urban migrants”, Chinese Sociology and Anthropology, 43（1）: 23-41.

Dekker, R. & Engbersen, G. (2014). "How social media transform migrant networks and facilitate migration," Global Networks, 14 (4): 401-418.

Hiller, H. & Franz, T. (2004). "New ties, old ties and lost ties: The use of the internet in diaspora". New Media & Society, 6 (6):731-752.

Latour, B. (2005). Reassembling the Social: An Introduction to Actor-Network-Theory. New York: Oxford University Press.

Latour, B. (1987). Science in Action: How to follow scientists and engineers through Society. Cambridge. Harvard University Press.

Law, P. & Peng, Y. (2007). Cellphones and the social lives of migratn workers in southern China. In R. Pertierra (Ed.), The social construction and usage of communication technologies: Asian and European experiences (pp. 126-142). Phillipines: University of the Phillipines Press.

Madianou, M. & Miller, D. (2012). New Media and Migration. New York:Routledge.

Munroe, R. (2009). Actor Network Theory in Clegg, S. & Hauggard, M. (eds). The Sage Handbook of Power, London: The Sage Publication.

Portes, A. Escobar, C. & Radford, A. (2007). "Immigrant transnational organizations and development: a comparative study", International Migration Review, 41 (1), 242-282.

Portes, A. & Dewind, J. (eds) (2004). "Conceptual and methodological developments in the study of international migration", International Migration Review, 38: (3).

Vertovec, S. (2004). "Migrant transnationalism and modes of transformation", International Migration Review, 38 (3): 970-1001.

<韓国語文献>

김경미(2013). "여성결혼이민자의 인터넷 이용과 한국사회 적응". 정보사회와 미디어, 25, 1-27.

김영경(2015). "결혼이주여성의 사이버 공동체 사회자본에 관한 연구". 민족연구, 62, 4-26.

김영순 · 임지혜 · 정경희 · 박봉수(2014). "결혼이주여성의 초국적 유대관계에 나타난 정체성 협상의 커뮤니케이션". 커뮤니케이션 이론, 10 (3), 36-96.

김이선 · 김민정 · 한건수 (2006). 여성결혼이민자의 문화적 갈등 경험과 소통 증진을 위한 정책과제. 한국여성개발원.

김혜선(2014). 글로벌 이주와 초국가적 가족유대. 한국학술정보.

박미숙 · 김영순(2015). "입국초기 결혼이주여성의 스마트폰 이용 경험에 관한 연구". 여가학연구, 13 (1), 1-27.

설진배 . 김소희 . 송은희(2013). "결혼이주여성의 사회적 연결망과 초국가적 정체성: 한국생활적응과정을 중심으로". 아태연구, 20 (3), 229-260.

안지현 · 정철(2014). "한류의 지속가능성과 한류문화콘텐츠의 성공과정에 대한 탐색적 고찰". 관광학연구, 38 (7), 215-238.

이상훈 · 김은규(2015). "문화접변과 미디어: 결혼이주여성들의 미디어 이용 경험과 다문화미디어교육 인식에 대한 연구". 언론과학연구, 15 (4), 205-244.

이지은 · 성동규(2013). "페이스북 이용과 대인네트워크 변화에 대한 한 · 미 문화 간 비교 연구: 자아개념과 자기노출, 대인불안을 중심으로". 사회과학연구, 24 (1), 257-281.

조성호 · 박희숙(2009). 여성결혼이민자들의 텔레비전 이용 동기와 만족: 대도시 거주 여성 결혼이민자를 중심으로. 한국방송학보. 23 (6).

최진희 · 주정민(2014). "결혼 이주여성의 미디어 이용과 문화적응에 관한 탐색적 연구". 디아스포라연구, 8 (2), 7-39.

출입국 · 외국인정책본부(2016). 외국국적동포 지역별 현황.

参考　韓国語参考文献日本語表記

キム・キョンミ(2013)「女性結婚移民者のインターネット利用と韓国社会適応」、情報社会とメディア,25,1-27.

キム・ヨンギョン(2015)「結婚移住女性のサイバー共同体社会資本に関する研究」、民族研究、62,4-26.

キム・ヨンスン,イム・ジヘ,チョン・キョンヒ,パク・ボンス(2014).「結婚移住女性の超国的紐帯関係に表れた正体性協商のコミュニケーション」.コミュニケーション理論,10（3),36-96.

キム・イソン,キム・ミンジョン,ハン・ゴンス(2006).女性結婚移民者の文化的葛藤経験と疎通増進のための政策課題,韓国女性開発院.

キム・ヘソン(2014).グローバル移住と超国家的家族紐帯.韓国学術情報.

パク・ミスク,キム・ヨンスン(2015).「入国初期結婚移住女性のスマートフォン利用経験に関する研究」.余暇学研究,13（1),1-27.

ソル・ジンベ,キム・ソヒ,ソン・ウニ(2013).「結婚移住女性の社会的連結網と超国家的正体性:韓国生活適応過程を中心に」.亜太研究,20（3),229-260.

アン・ジヒョン,チョン・チョル(2014).「韓流の持続可能性と韓流文化コンテンツの成功過程に対する探索的考察」.観光学研究,38（7),215-238.

イ・サンフン,キム・ウンギュ（2015).「文化接変とメディア:結婚移住女性たちのメディア利用経験と多文化メディア教育認識に対する研究」.言論科学研究,15（4),205-244.

イ・ジウン,ソン・ドンギュ（2013).「フェイスブック利用と対人ネットワーク変化に対する韓・米文化間比較研究:自我開発と事故露出、対人不安を中心に」.社会科学研究,24（1),257-281.

チョ・ソンホ,パク・ヒスク(2009).女性結婚移民者たちのテレビジョン利用動機と満足:大都市居住女性結婚移民者を中心に.韓国放送学報.239」6).

チェ・ジニ,チュ・チョンミン(2014).「結婚移住女性のメディア利用と文化適応に関する探索的研究」.ディアスポーラ研究,8（2),7-39.

出入国・外国人政策本部(2016).外国国籍同胞地域別現況.

English Abstract

Media Technology Actor Network of International Marriage Migrants and Their Life Transformation Experience

Yeun Hee Kim (Daegu University)

This study paid attention to the life experiences of marriage migrant women created through their interactions with media technologies in their migration and post-migration adjustment processes, and how they became empowered to become an autonomous agent in their lives. This study applied Actor Network Theory as an analytical framework, which has proved to be useful in understanding the contemporary daily life experiences heavily intertwined with modern technologies. This study collected data by conducting an in-depth interview with 7 marriage migrants from China. The findings of the study include: Television was the main media technology the interviewees were engaged in prior to migration. In Korea, the media technologies these women used were more diverse as they learned to make use of computer, internet, smartphone, SNS and cyber learning. While the interviewees made a decision on their migration in their homeland based on the lopsided information fed by the television, they were able to develop networks with more diversified media technologies when they arrived in Korea, which opened up transformative spatio-temporal experiences for these women and helped them to develop identities as an autonomous subject in their life and ones with cosmopolitan outlook who refuse to be pigeonholed just as international marriage migrant. Disassembling the blackbox of marriage migrant women's media technology actor network revealed the complexity of numerous human and non-human actors at macro, meso, and micro levels interacting with each other and the consequences of the interactions among these actors on these women's decisions for migration and for inventing their new identities and life paths. Research and practice implications were discussed at the end.